

# 殊

カ シュ

こと

10画  
フ 夕 殳 殳 殊

**なりたち** 死の意味の夕と、切り株の赤い意味の朱との会意形声字。首切りの死刑を表した字。極刑なので「特殊」といい、「特別」の意味が生じた。

いみじゆく

▼特別。

殊殊：特別であること。普通と違っていること。例

殊勲：特別に優れた手柄。例 殊勲賞

殊勝：けなげで感心なこと。例 殊勝な心がけ。

用例 殊更：①わざと。故意に。②とりわけ。特に。用例 殊更優れた成績とは言えない。



# 珠

カ シュ

シュ

10画  
一 一 王 王 珠

「右へはらう」

**なりたち** 玉の意味の王(たまへん)と、赤い色の意味の朱との会意形声字で、サンゴやルビーのように赤い色をした宝玉を表した字。紅石。転じて、「宝玉」の意味から「美しいもの・丸いもの」の意味に用いられる。

いみじゆく

▼宝玉。真珠。

珠玉：①真珠や寶石。②美しく立派なもの。用例 珠玉の文章。

宝珠：①宝玉。②頭がどがつて炎の形をした玉。欲しい物を出すという。如意宝珠。

丸いもの。数珠：百八の小さい珠(たま)を糸でつないで輪にしたものを仏を拝んだり念仏などの回数数を数えたりするのに使う念珠。

念珠：数珠のこと。珠(たま)を一つずつ繰りながら念仏するのでいう。

連珠：①珠(たま)を連ねること。②碁の遊び方の一つ。五目並べ。

珠算：そろばんでする計算。

さんこう 特別なよみかた↓



# 果

カ

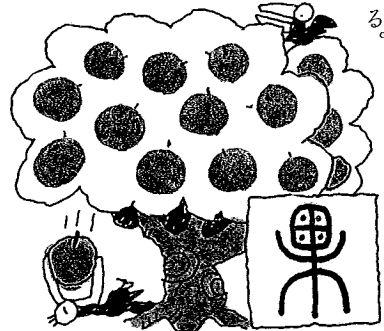
はたす・はて

「4年」

8画  
一 一 口 日 旦 果

「とめる」

**なりたち** 木の上に実が生えている形を表した象形字。木の実、果実を表した字。くだもの。種が始まりとすれば果は終わりであるから、「終わり・はて」の意味に用いられる。



いみじゆく

▼木の実。果物。

果実：①実。②果物。

果樹：果物がなる木。

青果：「青果物」の略。野菜と果物の総称。例 青果商

▼原因によって生じたもの。例 因果

因果：①原因と結果。例 因果関係

業の報いで現世での不幸があるという考え方。③不幸不運。

果報：①以前やった良い事に対する報い。②幸せ。幸運

結果：①ある事から生じた状態。②植物が実を結ぶこと。また、結んだ実。

▼思い切つてする。

果敢：思い切つて行うこと。

▼思つた通り。

果然：果たして。思つた通り。果物

さんこう 特別なよみかた↓

# 殊

# 菓

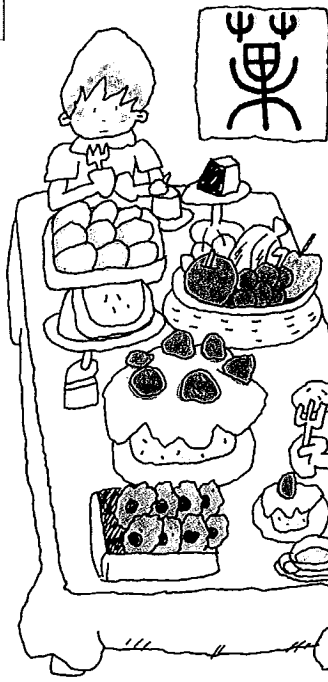
# 菓

カ

「とめる」

11画  
一 一 一 一 菓

**なりたち** 本字は果。果が終わる、果てるなどの意味に用いられるようになったため、果に「く(くさかんむり)を加えて作った会意形声字。くだもの・菓子。くだものを「水菓」といい、ケーキなどを「菓子」という。



いみじゆく

▼果物。木の实。

▼お菓子。間食用の甘い物。

菓子：間食用の食べ物。多くは甘い。もとは果物の意味。

例 洋菓子・和菓子

茶菓：茶と菓子。用例 茶菓を供する。

乳菓：牛乳入りの菓子。

製菓：職業として菓子を作ること。例 製菓業